

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第33号

2013年2月12日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DCC会館内
TEL 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

2・17から6・9の成功へ

全国運動の飛躍をかけて

国鉄闘争全国運動事務局

文京シビックホールにおいて6月9日に開催予定の全国集会は、全国運動の今後をかけた大切な集会です。6・9集会は、全国運動発足からちょうど3年となる節目の全国集会です。

全国運動は、1047名解雇撤回闘争をめぐる2010年4月9日の政治和解を前にして「国鉄闘争の火を消すな」を旗印に、新自由主義への対抗軸となる新しい労働運動を展望して運動を進めてきました。

約2年半の運動で呼びかけ人は倍増し、全国各地さまざまな運動を組織してきました。動労千葉の外注化阻止の闘いや、建設独占を揺るがした関西生コン支部の139日間の産業セネストなど、日本の労働運動史の中でも画期をなす闘いを展開してきました。

さらに、動労千葉の鉄建公団訴訟において「名簿不記載は不当労働行為」とする画期的な6・29東京地裁判決をかちとりました。4・9和解を超えて闘いを継続する中で1047名闘争の新たな展望を生みだしました。

6・29判決を受けて始まった「解雇撤回・JR復帰を求める高裁署名運動」は、もうひとつ回り大きな呼びかけの陣形が形成され、全国の労働組合から多数の署名が寄せられています。手応えと可能性を感じます。

しかし、全国運動の「初志」を考えれば、現状に満足するわけにはいきません。全国運動の理念を真に具体的な運動として組織していくための議論と実践を全国のみなさんと共に進めていきたいと思います。

全国運動をめぐる情勢として、2つの例を紹介します。

足立区の例

足立区は昨年来、外注化専門の受け皿会社の設立を進めています。これは絶対に看過できない問題です。その議論の中身は次のようなものです。

「施設管理や給食、清掃などの「従来型の外注化」は大半の自治体が着手済みでこれ以上の委託の余地はない。これからは若い非常勤職員や定年再任用のベテランを外注会社に移して、戸籍や住民票、国民健康保険の窓口業務など専門的定型業務の外注化を進める。受け皿会社は自治体の外郭団体を複数自治体の共同で株式会社化し、数年後には売却益収入を確保する。将来的には、他自治体への業務展開をめざす」

非常勤職員や定年になったベテラン再任用職員を使って、専門業務の外注化を進める構想は、エルダー社員を動員したJRの外注化と同じ発想です。総務省などをバックに足立区主導

で発足した「日本公共サービス研究会」には、昨年7月の発足時の段階で約150の自治体が参加し、3月末に中間報告を発表する予定です。

さらには東京水道インターナショナル株式会社や横浜水道ウォーター株式会社など海外ビジネスの展開も進んでいます。またマスコミなどの注目度は低いですが、その内容を詳細に検討すると、「西の大阪、東の足立」と言ってもけつてオーバーではない大変な動きです。

大阪市例

その大阪の橋下市長は、市営地下鉄やバス、病院や水道、ごみ収集事業などの民営化を進め、約1万6400人の職員の

非公務員化を目指して矢継ぎ早の攻撃を加えています。

昨年12月には大阪市交通局が「地下鉄事業民営化基本方針(素案)」をまとめた。受け皿となる新会社を14年度半ばに設立し、市営地下鉄事業を廃止して、15年度より新会社の営業を始めるという構想です。

人員は現在より約800人少ない4500人規模。大阪市の100%出資する株式会社で将来的には上場を目指す。民営化に伴い約6100人の職員が退職するため、大阪市は退職金約1020億円が必要としています。

家庭ごみの収集・運搬事業については、14年度中に民間出資の新会社へ委託することを発表しています。今秋にも新会社を設立・運営する事業者を公募し、職員約1700人全員を新会社へ移籍させ、退職金総額は約200億円にのぼる見込み

と報道されています。

「退職金」は重大な問題です。国鉄や郵政、社会保険庁の民営化では、新組織に採用された職員については、勤続年数など労働契約に関する権利義務関係は継承されました。大阪市のへ全員を退職させ退職金を清算して支払うのは、重大なエスカラーションです。

国鉄や郵政、社保の場合は、国鉄改革法などの法律がともかくも「制定」されました。JRと年金機構については設立委員会が採用候補者を決めました。郵政では、公社解散時の職員は承継会社のいずれかの社員となることが規定されました。

大阪市の場合は、こうした法律もなしで、文字どおり政治的暴力で地下鉄事業を廃止して全員を退職(解雇)させ、選別の上で新会社に新規採用する方式で進んでいます。

職場から外注化・非正規職撤廃の闘いを

重大な情勢の到来です。国鉄闘争が持っている歴史的意義の大きさを再確認し、国鉄闘争を継続させた全国運動の真価を發揮する時です。

民営化や外注化、非正規化などの攻撃はすべて国鉄分割・民営化から始まりました。これに對抗して1047名闘争や動労千葉が20数年間にわたる闘いを継続してきたことは労働運動の歴史からみても、現実には無数の闘いの結集軸となって新自由主義へと対抗力となってきたことをみても、画期的な意味を持っています。

多くの労働組合が自らの職場の民営化や外注化、非正規化との闘いを、国鉄闘争と一体で闘ってきました。100万人と

強制出向無効確認訴訟 第1回口頭弁論

(日時) 2月27日(水) 13時15分
(場所) 東京地裁529号法廷

動労千葉鉄建公団訴訟 第2回控訴審

(日時) 2月27日(水) 14時30分
(場所) 東京高裁824号法廷
※正午に合同庁舎前に集合して下さい

2・17労働者集会

(日時) 2月17日(日) 17時から
(場所) すみだ産業会館(JR錦糸町駅前)

民営化を強行しようとしているので。大阪交通労働組合は「組合は民営化に賛成や反対という立場ではない」「交通局長は雇用を守ると言っているので「安心して」と伝えていく(中村委員長)として、組合としての対応を放棄し、無為無策のまま組合員を投げだそうとしています。

呼びかけ人の伊藤晃さんは「動労千葉は、事故責任の運転士への転嫁に反対し、事故は闘争にならない」という伝統を打破して、意識的に運動方針にして合理化に対する運動の形を見いだした」と述べています。ここが壁を突き崩す力です。自分たちの職場・産別の反合闘争、民営化や外注化、非正規雇用化に対する闘いを本心に考え抜いて、現場の労働者の気持ちに具体的な運動の形を与えることです。

情勢は確かに容易ではありませんが、全国運動の挑戦は、戦後の労働運動の伝統を継承し、その限界を突破することにあります。可能性は十分にあります。署名運動と反合・運転保安闘争を軸に第2ラウンドの闘いに入りましょう。雇用と安全を根



6・9シビックホールを埋めつくす結集を 写真は全国運動がスタートした2010年6・13集会

# 職場・地域で運動の拡大を

## 職場に「支援する会」の拠点を

山口武（動労千葉を支援する会・静岡）

昨年10月1日を頂点として、動労千葉は、外注化阻止・非正規職撤廃を掲げ、新自由主義の核心的攻撃に風穴を開けるような闘いを職場生産点において闘いぬぎ、日本の、いや、世界の労働者階級に勝利への道を赤々と照らし出した。この外注化阻止決戦の切り開いた地平がその後の階級情勢を根底から規定している。それがなかったら、11・4の労働者集会の大勝利も、官邸前の10万、20万の反原発闘争の爆発もありえなかった。

## 職場生産点での闘う労組づくり

石川正浩（動労千葉を支援する会・三多摩）

私たちは静岡の支援する会は、動労千葉、動労水戸の闘いになんと心もなやむべく、動労千葉の物販闘争を伊豆半島の先端から浜松まで、やり抜いた。動労千葉の組合員とともに労組まわりをやるだけでなく、その前後にも物販と鉄建公団訴訟の署名運動をやった。その中で、ある自治体の職員組合をはじめとして、署名運動に取り組んでくれる労組が10近く現れた。

ある教職員組合からは「執行委員会に説明に来てほしい」との要請を受けた。富士地区労議長の前嶋氏は全国運動の呼びかけ人からは団体署名をいただき、現在、地区労傘下の各労組まわりをやっているところである。

また、『外注化阻止ニュース』の朝ヒラを、浜松工場、静岡車両センターなどにガンガン入れた。その中で、ヒラを受け取る労働者と受け取らない労働者の顔を判別できるようにした。労働者もわれわれの顔を覚えてくれるようになり、「いつもご苦労さま」と声をかけてくれる労働者も現れるようになった。ヒラの力は偉大である。しかし、年に何回かのアリのバイビ

ラ入れではダメである。われわれは本気であることを見てもらわねばならない。ヒラを通して、国鉄労働者との団結を求めているのだ。その粘り強い持続的なヒラ入れが、職場の中で、1人2人と組織していくのだ。静岡では、職場に「支援する会」の拠点をづくり出すことを最大の課題としてがんばりたい。

## 公務員職場の闘い

この間、動労千葉の闘いに学びあうために公務員職場を見直してみると、「非正規公務員」が激増しており、無権利・分断支配・団結破壊の中に置かれていくことに気付かされました。これまで動労千葉物販で職場への要請行動を行っていたのですが、その窓口対応をしていた方々や現業労働者の多くが「非正規公務員」や外注先の労働者であるわけです。

## 外注化阻止、新たな手応え

動労千葉を支援する会・新潟

動労千葉を支援する会・新潟は1月18日、第4回総会を開催し、昨年10・1の外注化阻止の闘いを総括し、2013年前半の闘う方針を打ち立てました。総会では動労千葉の外注化阻止の闘いは戦後労働運動の限界に挑戦する歴史的な闘いであることを確認し、地区においても全力で闘いぬいた1年であったと総括しました。

総括の柱は3本で、①動労千葉の外注化阻止につながるJR職場の闘い、②4大産別を含む

合同労組の闘いが、着実に拡大しています。労働委員会闘争・裁判闘争も進んでいます。あくまで闘いの軸は職場・生産点にあります。そこでの組織拡大こそ労働委員会闘争・裁判闘争に勝利する力です。

動労千葉の解雇撤回・JR復帰訴訟審、強制出向無効確認訴訟勝利への闘いに学びながら、理論学習・職場闘争・団結強化・組織拡大に向けて、情宣活動を軸に闘いを強化しています。

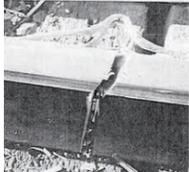
**外注化阻止ニュース** 第55号

発行日 2013年2月6日(水)  
発行 動労千葉を支援する会  
千葉市中央区要町2-8 DC会館  
http://www.geocities.jp/drosien28/index.html

JRの業務外注化を止めるためのニュースです。感想や意見、現場の情報などをお寄せ下さい。(メール) dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

### またもレール破断(総武快速線 津田沼～幕張間)

闘いなくして安全なし  
雇用と安全を守るために闘おう



総武線快速線津田沼～幕張間、レール破断が発見され、1日、列車の運行がストップ。破断箇所は津田沼駅付近で、破断は津田沼駅発車後、津田沼駅手前で行われた。破断は津田沼駅手前で行われた。破断は津田沼駅手前で行われた。

信号トラブル 69本運休  
JR総武快速線

週1ペースでJR東日本の各職場で配布されている「外注化阻止ニュース」(動労千葉を支援する会が発行)

このように闘いの成果として、6・29署名の拡大、呼びかけ人の獲得(2名)、支援する会への入会(1労組)、物販の回復傾向という成果を実現しました。入会した労組は11月集会と12月24日の羽越線集いに複数回、動員をしてくれました。

大恐慌下、国鉄1047名闘争の前進(6・29判決)を切り開き、外注化阻止を闘っている動労千葉への共感は着実に広がっています。この春からの第2ステージを闘う動労千葉とさらに団結し、地区においても闘うことで組織拡大を実現したいと思えます。

これこそ階級的労働運動をよみがえらせる闘いです。ともにがんばりましょう。